

The background of the slide is a dark, semi-transparent version of Raphael's famous fresco, 'The Last Supper'. It depicts Jesus Christ and his twelve apostles seated around a long table in a room with a coffered ceiling and several windows. The figures are engaged in various gestures of conversation and contemplation.

# 西洋美術史ゼミ

第8回

イタリア盛期ルネサンス美術・マニエリスム・北方ルネサンス美術

発表者 あまづん

# 発表者について

あまずん

Twitter : @quii\_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

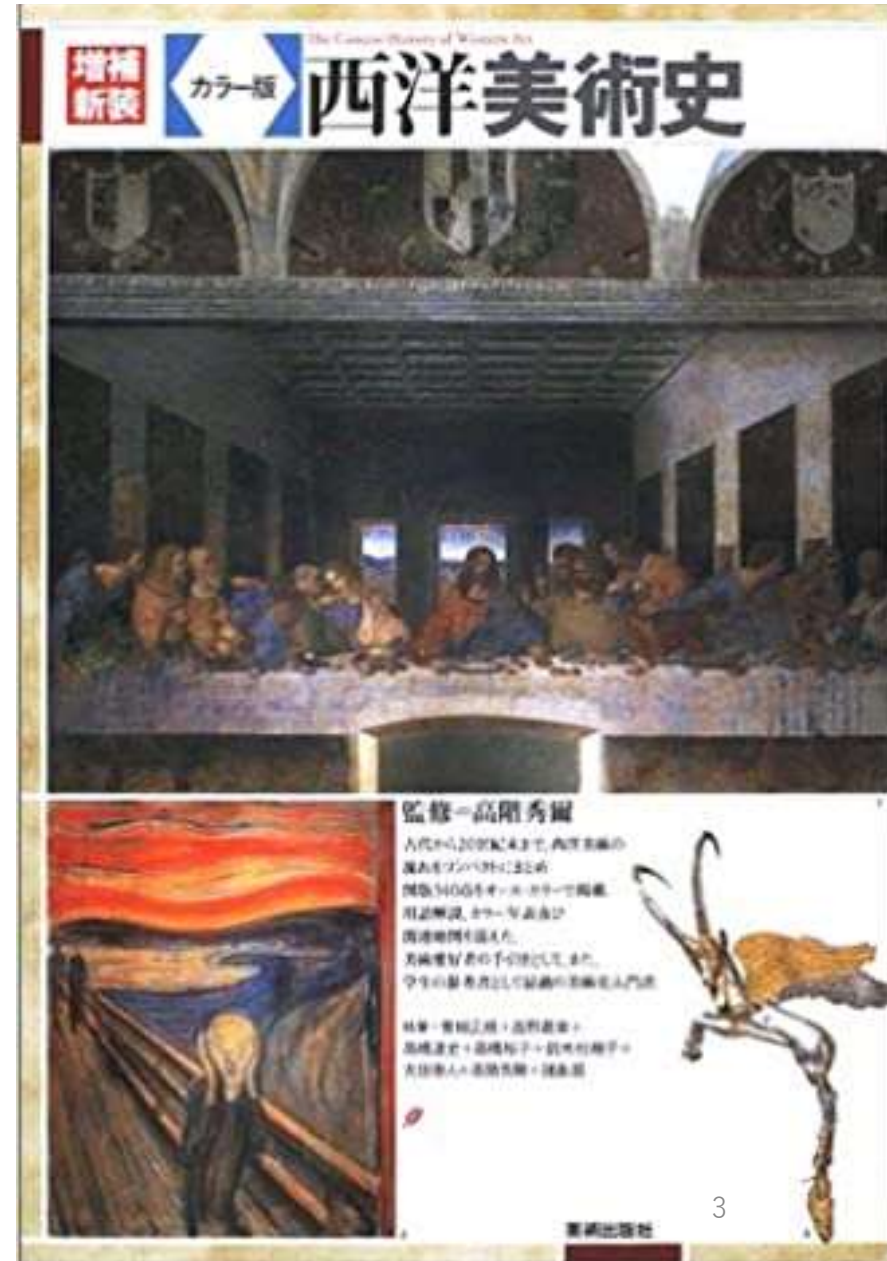
理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について  
興味があります。



## ゼミについて

- 週1回程度で美術出版社「増補新装 カラー版 西洋美術史」を一章ずつ読み進め、内容をまとめ発表します。
- また、高校世界史に沿う形で当時の出来事についても説明します。
- そのため、世界史と美術史を同時に学ぶことができるため、歴史が好きな方も美術が好きな方も学びを深めることができます。



# 前回の内容

- **大航海時代**が起こり**近世**が始まった。スペインとポルトガルが**海外進出**するなか、イタリアでは**ルネサンス**が起こっていた。
- イタリアでは、古代ギリシア・ローマの古典復興運動である**ルネサンス**が起こった。ジョットから始まり、建築、彫刻、絵画で**古典主義・自然主義的**な風潮が高まった。



ジョット 《荘厳の聖母》

# 本日の内容

美術について

- イタリア盛期ルネサンス美術
- 北方ルネサンス美術

# 全体の概略

- 今回の講義では**イタリア盛期ルネサンス美術**について扱った後、次回の導入として**15世紀の北方美術**について学びます。
- 西洋美術の完成と目されたルネサンス美術を、**ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロ**といった代表的な芸術家に注目して考えていきます。
- 15世紀の北方美術では、特に**ネーデルラント美術**について学びます。急速に発展した油彩技法が特徴となっています。

# 本日の内容

- 美術史：イタリア盛期ルネサンス
- 美術史：15世紀の北方美術

# 美術史：イタリア盛期ルネサンス(1)

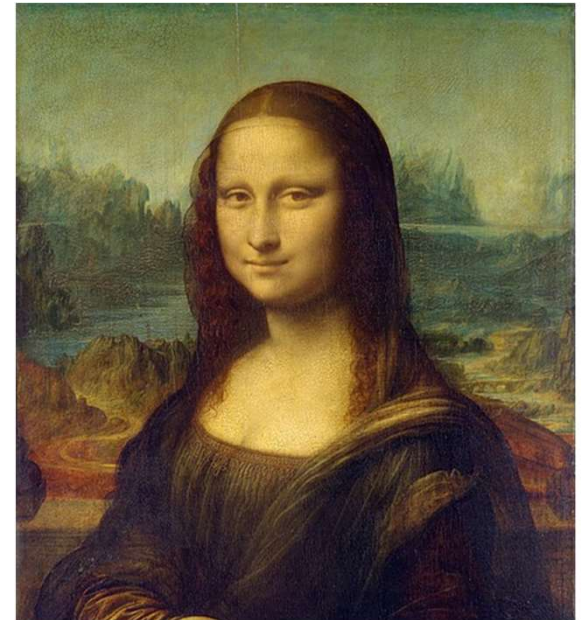
スライドの構成は以下の通りです。

- 概略
- ルネサンスの伝播
- レオナルド・ダ・ヴィンチ
- ミケランジェロ
- ラファエロ
- ティツィアーノとヴェネツィア派
- マニエリスム



# イタリア盛期ルネサンス美術(2):概略

- **イタリア盛期ルネサンス** (1490～1520) はわずか30年ほどの短い期間ではあるが、古代ギリシア・ローマに並ぶ**西洋美術の完成期**とみなされるようになった。
- この時代、芸術家たちは自身の天賦の才に自覚的になり、その個性的才能によって自己の芸術世界を表現しようとした。つまり、彼らは手仕事を行う「職人」から、自己表現を行う「芸術家」となったのである。



By Leonardo da Vinci - Cropped and relevelled from File:Mona Lisa, by Leonardo da Vinci, from C2RMF.jpg. Originally C2RMF: Galerie de tableaux en très haute définition: image page, Public Domain, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=15442524>

# イタリア盛期ルネサンス美術(3):ルネサンスの伝播(1)

- イタリアのフィレンツェに起こったルネサンスの新たな様式は、15世紀後半になると次第にイタリア半島各地に伝播していった。
- 各地の宮廷都市はその拠点となったが、北イタリアのマントヴァでは宮廷画家**マンテーニャ**が活躍した。
- マンテーニャは**サン・ジョルジョ城**《**「夫妻の間」**装飾壁画》において、遠近法を駆使した肖像画を描いた。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/) のライセンスを許諾されています

マンテーニャ 《「夫妻の間」装飾壁画》

# イタリア盛期ルネサンス美術(4):ルネサンスの伝播(2)

- また、中部イタリアにおいては**ピエロ・デッラ・フランチェスカ**が活躍した。
- フィレンツェで修業したピエロは遠近法技法に優れ、代表作は**サン・フランチェスコ聖堂壁画『シバの女王とソロモン王の会見』**『**キリストの洗礼**』である。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC-ND](#) のライセンスを許諾されています

ピエロ 《シバの女王とソロモン王の会見》

# イタリア盛期ルネサンス美術(5):ルネサンスの伝播(3)

- 16世紀に美術の中心地となる **ローマ** と **ヴェネツィア** についても触れる。
- 15世紀初頭におけるローマは荒廃していたが、その復興の象徴ともいえる造営物として **システィーナ大聖堂** があり、フィレンツェから招聘された **ボッティチェリ** や **ドメニコ・ギルランダイオ** が当時としては最高規模のフレスコ画を描いた。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています

ギルランダイオ 《ジョヴァンナ・トルナブオーニの肖像》

# イタリア盛期ルネサンス美術(6):ルネサンスの伝播(4)

- 一方、海上交易で栄えたヴェネツィアで描かれた絵画はビザンティン美術の影響を強く受けたものであったが、15世紀の半ば以降**ベッリーニ族**(父ヤーコポ、長男ジェンティーレ、次男ジョヴァンニ)が以後のヴェネツィア派の基礎を定めた。
- 特にジョヴァンニがイタリアにもたらされたばかりの油彩技法を駆使し、大気と陽光に満ちた風景を描いた。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

ジョヴァンニ・ベッリーニ 《聖ザカリア祭壇画》

# イタリア盛期ルネサンス美術(7):レオナルド・ダ・ヴィンチ(1)

- **レオナルド・ダ・ヴィンチ**は初期ルネサンスの自然主義的動向を集約し、盛期ルネサンスへの橋渡しをした人物であり、ヴァザーリによって**盛期ルネサンスの創始者**とされている。
- 科学者の目による徹底的な**自然観察**、それを写し取る高度な素描力に加え、精妙な明暗の推移による**ぼかし技法(スフマート)**や**空気遠近法**を用いて優美な理想的世界を描きだした。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/) のライセンスを許諾されています

レオナルド 《自画像》

# イタリア盛期ルネサンス美術(8):レオナルド・ダ・ヴィンチ(2)

- レオナルドはまずフィレンツェで修業した後、長らくミラノ公に仕えた。
- レオナルドは典型的な**ルネサンス万能人**として、絵画だけでなく彫刻、建築を含め幅広い分野で才能を発揮した。
- レオナルドの代表作は『**岩窟の聖母**』『**最後の晩餐**』『**モナ・リザ**』である。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-NC-ND](#) のライセンスを許諾されています

レオナルド 《岩窟の聖墓》

# イタリア盛期ルネサンス美術(9):ミケランジェロ(1)

- **ミケランジェロ**はヴァザーリの『芸術家列伝』において頂点に位置づけられ、ルネサンスで最も大きな影響力を持った芸術家であった。
- 自然全体に関心があったレオナルドとは対照的に、彼はひたすらに**人体表現**を課題として自らの芸術を展開させた。
- 従来に類を見ない多様なポーズを捉えたミケランジェロの人体表現は、後世に絶大な影響力を持つことになる。



ダニエレ・ダ・ヴォルテッラ 《ミケランジェロの肖像》



# イタリア盛期ルネサンス美術(10):ミケランジェロ(2)

- ミケランジェロはフィレンツェの画家ギルランダイオに師事したが、むしろメディチ家蒐集の古代彫刻に学び自己の様式を形成した。
- 1501年に『**ダヴィデ像**』を制作した後、1505年に教皇ユリウス2世によりローマに招聘され、同教皇の墓碑制作、1508年にはシスティーナ礼拝堂の天井画を手掛けた。



David Gaya - 投稿者自身による作品, CC 表示-継承 3.0,  
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=125216>による

ミケランジェロ 《ダヴィデ像j》

# イタリア盛期ルネサンス美術(11):ミケランジェロ(3)

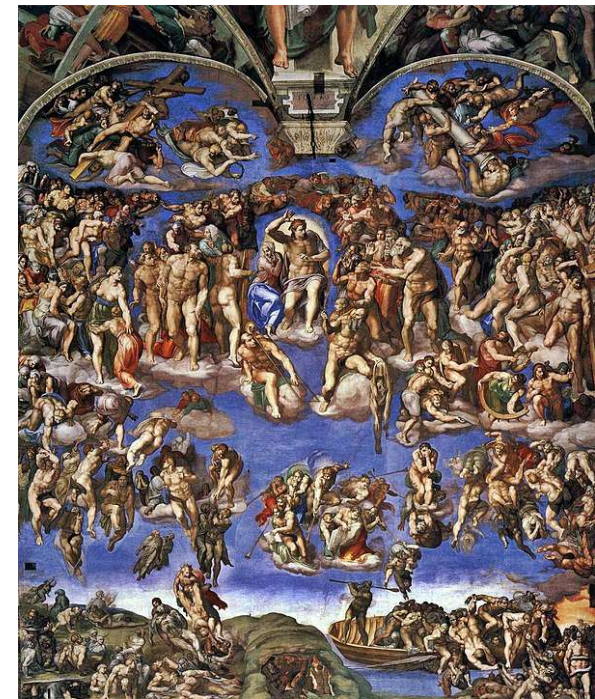


ミケランジェロ  
《システィーナ大聖堂天井画》

[1], CC 表示 2.5,  
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=13609>による

# イタリア盛期ルネサンス美術(12):ミケランジェロ(4)

- 盛期ルネサンスはレオナルド、ラファエロの亡くなる1520年ごろまでに終焉を迎えるが、ミケランジェロはそれよりさらに40年以上の長命を得て、盛期ルネサンスの調和と均衡から乖離した様式にたどり着く。
- 1533年にシステイーナ大聖堂に『**最後の審判**』を依頼されたが、当時再びイコノクラスムの風潮が興っており、異教的な裸体で構成されたこの壁画は教会から非難されることとなった。



ミケランジェロ 《最後の審判》

# イタリア盛期ルネサンス美術(13):ラファエロ(1)

- 自然で優美な人物表現、豊かな色彩といった盛期ルネサンスの古典主義的様式を集大成したのは**ラファエロ**その人であった。
- ラファエロははじめペルージャ（イタリア中部）にある工房に加わったのち、フィレンツェで活躍した。フィレンツェではとりわけ『**美しき女庭師**』で初期の名声を得た。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

ラファエロ 《自画像》

# イタリア盛期ルネサンス美術(14):ラファエロ(2)

- 1508年、ローマに招聘され、ヴァチカン宮殿の「署名の間」の装飾を担当し、『**アテナイの学堂**』を描いた。
- この壁画は古代ギリシアの学者が描かれているが、この部屋には『**聖体の論議**』というキリスト教主題の絵画などもあり、異教とキリスト教を融合したルネサンスを象徴するような空間であった。



ラファエロ 《アテナイの学堂》

# イタリア盛期ルネサンス美術(15):ラファエロ (3)

- ヴァチカン宮殿での仕事が高く評価され、ラファエロは旺盛に活動することとなる。
- 彼は銀行屋アゴスティーニ・キージに『**ガラテアの凱旋**』を描いたが、動性と安定感が調和したこの神話画はラファエロによる古典絵画の一つの頂点であった。



ラファエロ 《ガラテアの凱旋（勝利）》

# イタリア盛期ルネサンス美術(16):ラファエロ(4)

- また、最後の大作である『**キリストの変容**』では、ミケランジェロの影響が感じられるとともに明暗の強いそのドラマティックな構図は以後のバロック美術を予見させるものであった。
- ラファエロは早世したが、その様式は工房の弟子たちに受け継がれ、また古典主義の到達点としてイタリアのみならず**西洋美術の規範**として見なされるようになった。



ラファエロ・サンティ - 投稿者自身による作品, CC 表示-継承 4.0,  
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=43522641>  
による

ラファエロ 《キリストの変容》

# イタリア盛期ルネサンス美術(17): ティツ ツァーノとヴェネツィア派(1)

- ローマと並び16世紀に美術活動の中心地となったのは水都**ヴェネツィア**である。
- ベッリーニの晩年の弟子であった**ジョルジョーネ**と**ティツィアーノ**により、**ヴェネツィア派**は最盛期を迎えた。
- ヴェネツィア絵画は**華やかな色彩主義**と**油絵の自由な筆致**を特徴とし、フィレンツェ的な素描に基づく彫塑的表現と厳密な構図に相対するものであった。



ティツィアーノ 《聖母被昇天》



# イタリア盛期ルネサンス美術(18): ティツィアーノとヴェネツィア派(2)

- ヴェネツィア絵画では、ジョルジョーネの『**テンペスタ**』に見られるように詩的情緒のある風景要素も大きな役割を果たした。
- このように聖書や神話から自由な距離を置く詩的な絵画は**ポエジーア**（**詩的情緒画**）と呼ばれ、ヴェネツィア絵画の特徴となった。



ジョルジョーネ 《テンペスタ》

# イタリア盛期ルネサンス美術(19): ティツィアーノとヴェネツィア派(3)

- ジョルジョーネは早世するが、**ティツィアーノ**はジョルジョーネの『眠れるヴィーナス』を参考とし、『**ウルビーノのヴィーナス**』をはじめとする多くの裸体女性像を描いた。このような**官能性と世俗性**もヴェネツィア派の特徴であった。
- このような色彩美にあふれた奔放な絵画は後年のルーベンスやベラスケスに影響を与えることとなる。

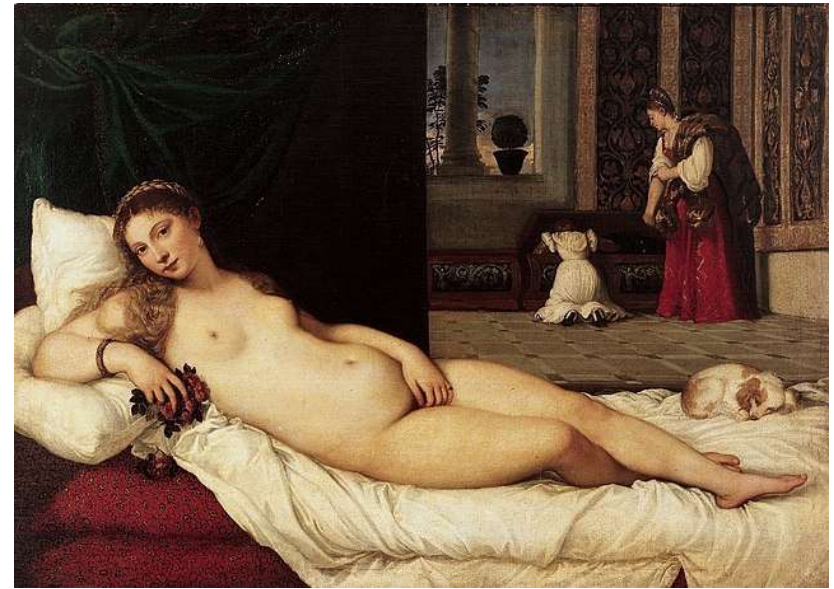


ティツィアーノ 《ウルビーノのヴィーナス》

# イタリア盛期ルネサンス美術(20): ティツィアーノとヴェネツィア派(4)



ジョルジョーネ 《眠れるヴィーナス》



ティツィアーノ 《ウルビーノのヴィーナス》

# イタリア盛期ルネサンス美術(21): マニエリスム(1)

- 1520年前後にレオナルドとラファエロが相次いで亡くなると、新たな美術潮流が現れた。
- それまでのルネサンス美術の主眼が自然模倣にあったのに対し、ミケランジェロやラファエロの手法（マニエラ）を模倣する**マニエリスム**が生まれた。



ポントルモ 《十字架降下》

# イタリア盛期ルネサンス美術(22): マニエリスム(2)

- マニエリスム絵画の特徴として、**異常に長く引き伸ばされた人体**のプロポーションや、合理的な**遠近法的空間への無関心**、**非現実的な色彩**など**反古典主義的な要素**を特徴とする。
- フィレンツェとローマの美術家として、**ポントルモ**や**パルノジャーノ**などが居た。
- アルプス以北に伝播したマニエリスムでは、**ブロンズイーノ**の難解な寓意画（アレゴリー画）や肖像画が代表的である。



ブロンズイーノ 《愛のアレゴリー》

# 本日の内容

- 美術史：イタリア盛期ルネサンス
- **美術史：15世紀の北方美術**

# 美術史：15世紀の北方美術

- 北方とは**アルプス以北**、つまり**ネーデルラント**（現在のベルギー・オランダ）や**ドイツ**、**フランス**を指す。
- イタリア＝ルネサンスの成果がこれらの国に持ち帰られるのは少し後の時代だが、時を同じくして美術の**新たな潮流**が生み出されたことは間違いない。
- この時代の特徴は急速に発展した**油彩技法**であり、**初期フランドル派**（**初期ネーデルラント派**）とも呼ばれる。



ファン・エイク兄弟 《ヘント祭壇画》

# 美術史：15世紀前半のネーデルラント美術 (1)

- 油彩技法が急速に発展したこの時代、唐突に、そしてほとんど完成した形で出現した油彩による肖像画は後代の画家に大きな影響を与え続けることとなる。
- この時代に有名な画家にヤン・ファン・エイク、ロベルト・カンピン、ロヒール・ファン・デル・ウェイデンがいる。
- ヤン・ファン・エイクの写実的表現や、カンピンとロヒールの感情表現は国を越えて欧州全土に波及する。



ヤン・ファン・エイク 《アルノルフィーニ夫妻の肖像》



# 美術史：15世紀前半のネーデルラント美術 (2)

- ヤン・ファン・エイクは兄フーベルトとともに『ヘント祭壇画』を描いた。
- フーベルトは緻密であったが平面的であり、ヤンは**現実的な奥行き**を表現している。
- また、ヤンは『**アルノルフィーニ夫妻の肖像**』や『**ファン・デル・パーレの聖母子**』で有名であり、写実性が評価されている。



ヤン・ファン・エイク 《ファン・デル・パーレの聖母子》

# 美術史：15世紀前半のネーデルラント美術 (3)

- **カンピン**はヤン同様、油彩による写実性の高い**宗教画**と**肖像画**を制作していた。
- その代表作は『**メロード三連画**』であり、線遠近法を知らないために不自然な奥行きとなっているものの、感情を豊かに表出している。



カンピン 《メロード祭壇画（メロード三連画中央）》

# 美術史：15世紀前半のネーデルラント美術 (4)

- カンピンの弟子である**ロヒール**はカンピンの画風をさらに洗練させ、信仰深い人の涙を誘い、あるいは喜ばせるような観者の情動に訴えかける作品を制作した。
- ロヒールの代表作は『**十字架降下**』である。



ロヒール 《十字架降下》

# 美術史：15世紀後半のネーデルラント美術 (1)

- 15世紀後半のネーデルラントの画家は多かれ少なかれヤン・ファン・エイクかロヒールの影響下にあった。
- この時代の中心的画家には**ハンス・メムリンク**や**ダーフィット**が挙げられる。
- メムリンクはヤンの伝統を引き継ぐ**宗教画**を制作し、ダーフィットは**風景表現**を得意として後の風景画を先取りしたような絵画を描いた。

# 美術史：15世紀後半のネーデルラント美術 (2)



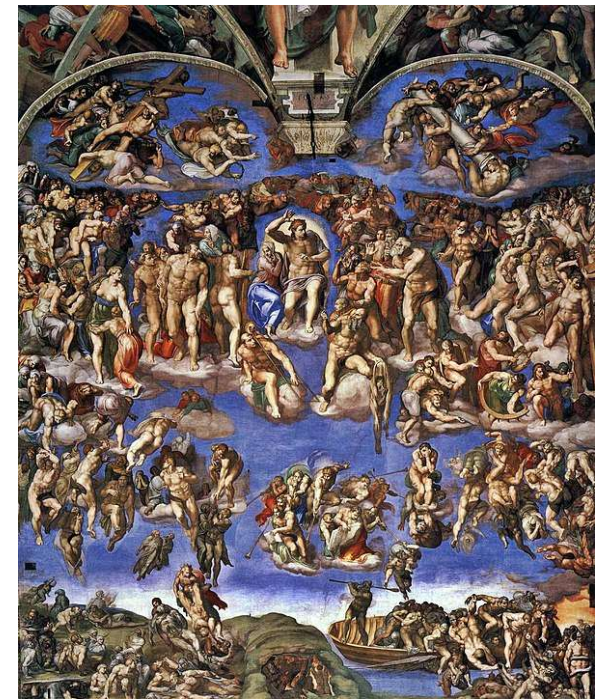
メムリンク 《聖ヤコブと聖ドミニコの間にいる  
聖母マリアとその子》



ダーフィット 《受胎告知》

# 本日のまとめ

- 1490～1520の盛期ルネサンス美術では**レオナルド・ダ・ヴィンチ**や**ミケランジェロ**、**ラファエロ**、**ヴェネツィア派**が活躍し、その死後に新たな美術潮流である**マニエリスム**が興った。
- 北方では油彩技法が急速に発展し、**ヤン・ファン・エイク**や**カンピン**、**ロヒール**などの画家が活躍した。



ミケランジェロ 《最後の審判》

# 次回の内容

- 次回は**北方ルネサンス美術**について学びます。イタリアルネサンスの影響を受けたアルプス以北では、風俗画の先駆けとなる農村風俗主題の作品を描いた**ブリュッゲル**や、活躍前後で時代が区分されるほどに象徴的なドイツの画家**デューラー**などについて学びます。
- 関連ワード
  1. ブリュッゲル 《農民のダンス》
  2. デューラー 《メランコリアI》



デューラー 《メランコリアI》